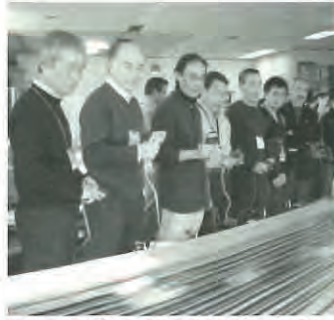


SCRAMBLE NEWS

スロットレーシングカーで元GCC選手がバトル。

GC (グランドライオンレース) ドライバーが熱い戦いを繰り広げた。GCが復活かと思いきや、さにあらず。1/24スケールスロットレーシングに元選手が挑戦した。07年11月にMFC (モデルカーレーシング・ファン・クラブ) を田村吉幸氏 (チエアマ) が立ち上げた。田村氏はGC初代チャンピオンの鮎子田寛氏と親交があったことから、2月24日に「往年のGCCドライバーによるスロットカーイベント」を東京都世田谷区の「レーシング・パラダイス世田谷」で開催した。



かつてのGC選手が熱き戦いを繰り広げた。

GTRオーナーズクラブ ニューイヤーパーティ。
08年2月2日に日産プリンス東京販売スカイラインスポーツクラブ東京、GTRオーナーズクラブのニューイヤーパーティが東京都千代田区九段北のアルカディア市ヶ谷で開催された。特別ゲストはプリンスR380やスカイラ

参加ドライバーは北野正氏 (ユニベック・マーチ735)、高橋晴邦氏 (シグマGC73)、津々見友彦氏 (ロビタン・ローラT212)、08年もル・マンを走る寺田陽次郎氏 (シグマGC73)、長谷川昌弘氏 (ミノル・マーチ735)、鮎子田氏 (オンワード・シェパードB21)、見崎清志氏 (粕谷総業ローラT290)。
さらに現役の道上龍選手 (AKAAT童夢シエプロンB23) や服部尚貴選手 (ノバ53S) などが参戦。1周40mのコースで火花を散らせた。結果は、1位が現役の寺田氏、2位が北野氏、3位が高橋晴邦氏。年内にはもう1戦予定しているとか。

田中健二郎さんを偲ぶ会開催。
07年12月29日午前11時25分に逝去された田中健二郎さんを偲んで、2月22日に「田中健二郎さんを偲ぶ会」が、港区赤坂のホテルで行われた。発起人は高橋国光氏と北野正氏。レースの神様とまで言われた田中健二郎氏は、交際の範囲が広く、多くの弟子を育てたことでも知られている。ホンダの2輪時代の監督である河島喜好氏も顔を見せた。オートレース時代の友人でもあり、トヨタとトヨタに在籍した田村三夫氏、三菱ニコルスポーツという健二郎学校の優等生であった長谷川昌弘氏、3カ月だけ健二郎学校に入ったという

たエンジンリアの後藤信幸氏。恒例のゲストは砂子義氏、砂子義長氏、伊藤修次氏、渡邊衛三氏、日置和夫氏、上村福治氏、関根基司氏など豪華メンバー。
「第3回日本グランプリでの落下型給油装置を考案したヒントはトイレの手洗いだっただです」と柿島氏。
「教壇のコンピュータはコースを1周するのに1時間かかったので、鶴見のスーパードコンピュータを借りました。でも30度バンクの凸凹で跳ねることはコンピュータに出ませんでした」と後藤氏。
予想外の質問も飛び出し、ゲストがたじろぐ場面もあったが、終始なごやかにパーティは進行し、閉会を迎えた。



柿島道雄氏 (左) と後藤信幸氏がゲスト。

イン2000GTなどの設計者の柿島道雄氏と富士スピードウェイのコースをレーシングカーで走るデータをコンピュータで解析した。

ある片山義美氏などが草話を披露した。また、70年8月の「アルスターGP」で転倒したとき傷が入ったヘルメットや珍しいアルバムが展示され、関係者の涙を誘っていた。
ニューイヤー ミーティングが行われた。
08年1月27日、恒例のニューイヤーミーティングが東京・江東区青海臨時駐車場特設会場で行われた。今回のテーマはトヨタ車。トヨタ2000GTやトヨタスポーツ800が勢ぞろいした。会場のクラブスタンドではいろんな催し物が行われた。全日本ダットサン会では、79歳の元日産エンジニアの斎藤義博さんのトークショー。オースチンA40、ダットサンS211の開発秘話を公開。また、スバル360のブースでは、元デザイナーの永田秀明氏と加藤登氏が百瀬賢六氏の思い出話を披露した。コンクールレダランスでは、審査員特別賞にマスタールインの河村智教さん、カローラ・レベリンの伊藤賢士さんなど4名が選ばれた。

たエンジンリアの後藤信幸氏。恒例のゲストは砂子義氏、砂子義長氏、伊藤修次氏、渡邊衛三氏、日置和夫氏、上村福治氏、関根基司氏など豪華メンバー。
「第3回日本グランプリでの落下型給油装置を考案したヒントはトイレの手洗いだっただです」と柿島氏。
「教壇のコンピュータはコースを1周するのに1時間かかったので、鶴見のスーパードコンピュータを借りました。でも30度バンクの凸凹で跳ねることはコンピュータに出ませんでした」と後藤氏。
予想外の質問も飛び出し、ゲストがたじろぐ場面もあったが、終始なごやかにパーティは進行し、閉会を迎えた。

「スカイライン」
元村郁朗著
ルーツとなるオオタ号からC10スカイラインまでの変遷やレースでの活躍などを紹介。第4章には奇跡の49連勝と題して、50連勝目の敗北が詳しく述べられている。沢山の貴重な写真もあり、スカイラインファンならぜひそろえたい1冊。定価1,995円 (税込)。
■問い合わせ先／三樹書房 〒101-0051 東京都千代田区神田神保町1-30-03 1329515398

55年に誕生して以来日本のモーターゼーションをリードしてきた名車は「安全安心」を受け継ぎながらも、先進技術を積極的に取り入れてきた。
外観はクラウンらしさを残しながらより洗練された。ハイブリッドも投入された。V6 3.5リッターで4.5リッターに匹敵する性能を備える。また、ドライバーの目の開閉状態を感知してブレーキ操作を促す「プリクラッシュユセーフティシステム」を採用。
■問い合わせ先／トヨタ自動車お客様相談センター ☎0800-17000-17700

読者の「お便りから」
●写真が美しいです。(埼玉県・堀祐一・44歳)
●ホンダの魅力が詰まった1冊だと思えます。やはりホンダS800は名車です。このコンCEPTをぜひ現代の車に復活させてほしい。(滋賀県・吉川和夫・50歳)
●てんてん盛りのホンダ車ありがとうございました。偶から隔まで読ませていただきました。何も言うことはありません。ただただ全部がホンダということが嬉しすぎます。また宝物が1つ増えました。(宮城県・菅原博康・58歳)
●本当であればホンダN360まるごと1冊の本としてまとめてほしい。NO.1N3までの変遷として保存版を期待します。メカニカルな面まで特集してほしい。
●ホンダS800とホンダN360の発想の面白さは素晴らしい。現代の車は優等生すぎる。あんな技術屋の社長(本田宗一郎)はもう誕生しないでしょう。売れる車とどんな作らなければいけないのしょうか。(神奈川県・根岸昇・54歳)
●ホンダ車は旧車なので、興味が薄かったのですが、ホンダS800やS600の写真を見たとき見ると、興味が湧いてきました。(徳島県・大東勤・43歳)
●ホンダは大変良い企画だと思います。もう少し昔の写真などありましたら、掲載してほしいと思います。白黒でも結構です。(東京都・梅原清一・52歳)
●正直ホンダはあまり興味なかったのですが、別冊を読んだら興味が湧いてきました。45年前に国際ラリーに挑戦していたことや不運にもラリー中ドライバーが事故死したことも知りませんでした。ホンダがなぜワークスでラリー活動しないのが納得しました。今後、H車に対する考え方も変わります。次回別の別冊を楽しみにしています。(静岡県・鈴木秀樹・46歳)
●大変楽しく読みました。鈴ヶ崎のことを思い出しました。ホンダN360Sで富士スピードウェイへレース観戦に行ったこともありました。昔の車は特徴がありましたね。(静岡県・野澤久雄・59歳)
●沢山のホンダSやホンダNの取材をやっているのよかったです。できればホンダT360やT500の記事も載せてほしい。(静岡県・嶋田和樹・56歳)
●RSCだけで1冊出してほしい。(兵庫県・太田和彦・46歳)

計報 08年2月25日、日本のモーターサイクルスポーツの草分け的存在の西山秀一氏が逝去された。享年89。西山氏は全日本モーターサイクルクラブ連盟 (MCAFAJ) の事務局長として活躍。高橋国光や伊藤史朗らを育てた。浮谷東次郎のバイクの指南役だった。



田中健二郎さんのヘルメット姿。



日本の高級車の代名詞クラウンは13代目になった。



「バスがすべて」
広田民郎著
バスは高齢化社会ではますます需要が高まる。本書では大型バスのデザインやメカニズム、ディーゼルエンジンの環境に対する取り組みなどがわかりやすく述べられている。定価2,000円 (税込)。
■問い合わせ先／グランプリ出版 〒116-2108 東京都新宿区袋町3-03 323513531

高次車の代名詞であるクラウンが13代目になった。
ある片山義美氏などが草話を披露した。また、70年8月の「アルスターGP」で転倒したとき傷が入ったヘルメットや珍しいアルバムが展示され、関係者の涙を誘っていた。
ニューイヤー ミーティングが行われた。
08年1月27日、恒例のニューイヤーミーティングが東京・江東区青海臨時駐車場特設会場で行われた。今回のテーマはトヨタ車。トヨタ2000GTやトヨタスポーツ800が勢ぞろいした。会場のクラブスタンドではいろんな催し物が行われた。全日本ダットサン会では、79歳の元日産エンジニアの斎藤義博さんのトークショー。オースチンA40、ダットサンS211の開発秘話を公開。また、スバル360のブースでは、元デザイナーの永田秀明氏と加藤登氏が百瀬賢六氏の思い出話を披露した。コンクールレダランスでは、審査員特別賞にマスタールインの河村智教さん、カローラ・レベリンの伊藤賢士さんなど4名が選ばれた。

計報 08年2月25日、日本のモーターサイクルスポーツの草分け的存在の西山秀一氏が逝去された。享年89。西山氏は全日本モーターサイクルクラブ連盟 (MCAFAJ) の事務局長として活躍。高橋国光や伊藤史朗らを育てた。浮谷東次郎のバイクの指南役だった。